



自費ドックに関する質問

Q. 医師による視触診は、受けなくても大丈夫でしょうか?

A.

心配ありません。従来の乳がん検診では視触診を併用するコースが多くありましたが、現在は自治体はじめ多くの病院が、対策型(市町村)における視触診を廃止しています。

理由は、主に以下の3点です。

- ・厚生労働省により数年前から、「検診における視触診について、死亡率減少効果が十分でない」との見解が出されている。
- ・視触診については、御自身で定期的に自己触診したり、鏡を見ながら乳房を観察したりして変化の有無を確認することが一番有効な手段であり(ブレスト・アウェアネスという概念)、推奨されている。
- ・マンモグラフィに3D撮影機能が加わるなど、昔と比べて画像検査の進歩が目覚ましい。

そのため当センターの自費ドックでは、基本的には視触診を取りやめ、より有効な手段である画像検査に複数のコースを用意し、皆様に提供させていただく存じます。

当センターで検査を担当する技師は、他の病院と違い乳腺分野を専門としている技師であり検査の質が良く、また読影は当センターの乳腺専門医が行いますので、安心してお受け頂けます。また、経時的にご利用いただく場合、過去画像との比較をおこない総合的に判定しますので非常に有用です。